

令和元年6月18日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02531

研究課題名(和文) ヴィシー政権以降のフランス南部における文芸誌ネットワークについての実証的研究

研究課題名(英文) A positivist Study on the literature magazine network in the Southern France after Vichy France

研究代表者

重見 晋也 (SHIGEMI, Shinya)

名古屋大学・人文学研究科・准教授

研究者番号：40303573

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ヴィシー政権成立以降にフランス南部地域で発行された文芸誌から、継続して刊行されていたことがわかっている文芸誌から四タイトルを対象として選び、それらの文芸誌を可能な限りフランスの図書館で保管されている原本を閲覧し、特に書評欄および文芸欄の調査をおこなうことで、四つの文芸誌それぞれの特徴を分析し、ヴィシー政権期およびドイツ占領下のフランス南部における文芸誌発行の広がりを確認した。本研究によって、同時代のフランス南部地域における文芸誌発行のネットワークの枠組みの存在を実証的に提示することに成功した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

フランスが第二次世界大戦においてドイツ軍に占領されていたことはよく知られている。本研究は、従来あまり顧みられてこなかったドイツ占領下におけるフランスの文芸誌出版活動の中でも、特に当初ヴィシー政権下にありのちにドイツ占領下に組み込まれた南部地域を対象を限定し、それらの文芸誌が占領下においてネットワークを構成して活動していたことを明らかにしようとした。本研究の成果は最終年に研究代表者がフランスで行った口頭発表に代表されるようにフランスで高く評価されたが、それは文芸誌研究という新しい対象を開拓したことに加えて、これまで等閑視されていた資料を発掘したことにある。

研究成果の概要(英文)：This study succeeded in presenting the existence of a network of literary magazines in the Southern France under German Occupation period, by focusing on the four magazines which are continued to be published from the very beginning of the WWII in the region, and also by consulting original printings archived in French libraries with specially attention to columns on book review. Analysis of specificities of every four magazine also assures us an existence of cooperated spread in their activities.

研究分野：フランス文学

キーワード：ドイツ占領下フランス 文芸誌ネットワーク フランス南部 検閲

1. 研究開始当初の背景

ドイツ占領下のフランスにおける出版文化を対象とした日本での研究は、歴史的視点やエマニュエル・ムニエなどの知識人作家研究の視点などからの散発的なものにとどまっている。一方でフランスにおけるドイツ占領期の出版文化への関心は高い。当該領域を対象とした研究としては、終戦直後から始められているが、1987年に法整備の観点からドイツ占領下における出版状況についてパスカル・フーシェが研究書兼資料集 *Éditions françaises sous l'Occupation* を刊行し、研究の画期を成し、それは近年ジゼール・サピロらにより主に歴史学・社会学の分野において継続されている。これと並行して Institut Mémoires de l'Édition Contemporaine (以下、IMEC) によって精力的な資料収集と研究書の出版活動がおこなわれており、21世紀に入ってIMECから第二次世界大戦前後の大規模な出版社の活動についてのモノグラムが刊行されている。ドイツ占領下におけるフランス文芸誌についての先行研究としては、同じくIMECより2007年にオリヴィエ・カリゲルが *Panorama des revues littéraires sous l'Occupation* と題する出版目録を、また2011年にはIMECの後援する展覧会のカタログとして資料集が出版されている。

しかし、これらの研究によってもドイツ占領下のフランスにおける文芸活動の全体が明らかになっているとはいえない。ひとつにはフランス政府の潰走やドイツ軍の撤退という時代の混乱した状況の結果として滅失資料が多いという問題がある。前述したカリゲルの編んだ目録も悉皆というより限定的なものであり、一次資料の把握が十分に行われていないという問題がある。もうひとつには、パリを中心とするフランス北部地域と南部地域との間の出版状況のきり分けが必ずしも明確に研究に反映されていないことも瑕疵として指摘することができる。

2. 研究の目的

本研究は、ヴィシー政権成立以降にフランス南部地域で発行された文芸誌から、継続して刊行されていたことがわかっている『コンフリュアンス』 *Confluences* 誌、『ポエジー』 *Poésie* 誌、『ラルバレート』 *l'Arbalète* 誌、『カイエ・デュ・シュド』 *Cahiers du Sud* 誌の4タイトルを対象に選び、それらの文芸誌を可能な限りフランスの図書館で保管されている原本を閲覧し、特に書評欄および文芸欄の調査をおこなう。その調査によって、まず一義的には、四つの文芸誌それぞれの特徴を分析し、ヴィシー政権期およびドイツ占領下のフランス南部における文芸誌発行の広がりを確認することを目的としている。この研究目的によって本研究は、同時代のフランス南部地域における文芸誌発行のネットワーク全体を実証的に提示することを可能にするが、さらにそこから発展して、第二次世界大戦以降の文芸誌ネットワークが人文学テキストの生成に与えた影響についての考察へと発展する基礎的な考察を提供するものである。

3. 研究の方法

本研究計画は、ヴィシー政権以降のフランス南部地域における文芸誌ネットワークを実証的に解明し、それが第二次世界大戦以降の人文学テキストの生成に与えた影響を明らかにするという目的を達成するために、1)現地での資料調査によって研究の実証性の確保し、2)閲覧性の高いデータベース・システムを構築することで研究成果の機動的な公開を促進し、3)フランスの大学より第一線の研究者を招聘して開催する研究会によって研究の国際的水準に配慮することを三つの柱としている。また、研究成果については、各年度末に学術論文等により発表するだけでなく、講演会や収集資料を掲載した『年度報告書』を発行しその成果を広く公表するとともに、最終年度には期間内に収集した資料を『資料集』としても発行することを計画した。

4. 研究成果

初年度の2017年2月26日から3月5日まで、フランス国立図書館(以下、BnF)のアーセナル館(以下、A館)およびフランソワ・ミッテラン館(以下、FM館)にて資料の保存状態を確認する調査とあわせて資料収集をおこなった。収集の対象とした資料は、『コンフリュアンス』誌、『ポエジー』誌の前身である『ポエット・カスケ』誌、そして『ラルバレート』誌の3誌である。この結果、BnFではマイクロフィッシュ形式によってのみ『コンフリュアンス』誌の全体を閲覧することが可能であること、FM館よりA館において原本を閲覧することができることがわかった。またこの調査によって、BnFのweb版カタログの記述とは異なる収蔵状況であることが判明した。

『ポエジー』誌の前身である『ポエット・カスケ』誌は、軍隊内で発行された文芸誌で、わずか4号を刊行しただけで『ポエジー』誌へと引き継がれているが、第一次世界大戦においてフランス軍に従軍し負傷したギヨーム・アポリネールなどの特集を組んだり、ルイ・アラゴンが寄稿している点でも注目に値する。軍隊内で発行されてはいたものの、売価が印刷され、版を重ねたり、紙の質を変えた版も刊行されていることなどが調査によって明らかになっており、軍隊を出て一般にも流通していたと考えることができることが明らかになった。

『ラルバレート』誌についても、『ポエット・カスケ』誌と同じく現役兵士の詩作を掲載

することが念頭に置かれていること、『コンフリユアンス』誌への寄稿者と同じ名前を認めることができ、両誌のあいだの交流が『コンフリユアンス』誌の創刊時のエピソードを引き継ぐように続けられていたことを確認することができた。『ラルバレート』誌もまたポール・エリュアールやアラゴンの作品を掲載していたり、『コンフリユアンス』誌が掲載していたリルケの翻訳を掲載するなど、連動して出版活動を行っていた可能性が調査から明らかになった。

前年度に BnF で行なった調査では、『ラルバレート』誌については BnF の A 館で保存資料に欠号があったためその文芸誌の全体を調査することができていなかった。そこで 2017 年 11 月 21 日より 12 月 2 日までの 12 日間の予定で、リヨン市立図書館にて調査を実施した。同図書館が収蔵する『ラルバレート』誌は大変保存状態が良く、同誌発行時に挿入されていた購読申込書や同誌が翻訳して出版したジャン・ジュネやフランツ・カフカの作品の宣伝チラシもそのままの状態で見ることができ、特筆に値することが判明した。

また、2018 年 3 月 5 日より 11 日までの 7 日間、エクス＝マルセイユ大学（フランス）より Sylvie REQUEMORA-GROS 教授を招聘し、講演会を開催するとともに本研究計画等について議論した。同教授は 17 世紀フランス文学を専門としているが、17 世紀の文学活動において非常に大きな役割を担っていたサロンをつなぐある種の文字を媒介としたネットワークの存在を指摘した。これは、本研究計画が主たる対象としている文学作品を共有するネットワークの存在を、通時的な視点から補強するものであった。

2018 年 9 月 11 日から 18 日までの日程で、リヨン市立アーカイブ（Archives Municipales de Lyon、以下 AML）ローヌ県立アーカイブ（Archives Départementales du Rhône-Alpes、以下、ADRA）等にて資料調査をおこなった。AML と ADRA では、主として、検閲の指示書と検閲された雑誌の原本などの資料を閲覧・収集した。これらの資料は、調査を実施したアーカイブでも詳細を把握していない資料であり、学術的価値の高い資料の発見であった。

本研究に関連して、2017 年 11 月 27 日にポルト大学（ポルトガル）で、また 2018 年 9 月 17 日にエクス＝マルセイユ大学（フランス）でそれぞれ開催された国際研究集会にて研究発表を行なったほか、2018 年 9 月 22 日には「ドイツ占領下のフランス文化」と題する研究集会を、国内より 2 名の研究者を招聘して実施した。

各年度に収集した資料を含めて研究成果をまとめた『科学研究費補助金中間報告書』を毎年度印刷すると同時に、本研究で収集した資料のデータベースなどを公開している web サイト（<http://rfsoa.lit.nagoya-u.ac.jp>）にて PDF 版を公開している。さらに、2018 年 9 月開催の研究集会の報告書を兼ねて『科学研究費補助金研究報告』を 2019 年 3 月に発行し、研究期間中の各年度末に発行した『科学研究費補助金中間報告書』を再録している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 3 件)

- 1) SHIGEMI Shinya, « Quelles sont les conditions de l'organisation des savoirs humains? Dialogue entre Vannevar Bush, Theodor Nelson et Michel Foucault », *Études digitales*, Classiques Garnier, Paris, 2016, pp. 69-86. (査読有り)
- 2) 重見晋也, 「リスボン地震に見る文学の想像力」, 『名古屋大学人文学研究論集』, 第 1 号, 名古屋大学, 2018 年, pp. 391-400. (査読なし)
- 3) 重見晋也, 「狙われた『コンフリユアンス』誌—『アクション・フランセーズ』紙と『ジュ・スイ・パルトウ』紙との関係から—」, 『科学研究費補助金研究報告書課題番号:16K02531』, 第 1 号, 名古屋大学, 2018 年, pp. 391-400. (査読なし)

〔学会発表〕(計 4 件)

- 1) 亀山郁夫（講師）, 松澤和宏（パネリスト）, 重見晋也（パネリスト）, 「黙過の想像力ドストエフスキーとフランス文学」, 日本フランス語フランス文学会 2016 年度中部支部大会、(主催) 日本フランス語フランス文学会・(共催) 名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンター、2016 年 12 月 3 日。
- 2) SHIGEMI Shinya, « Le Moment de sélection à la conception du Memex. Lecture de trois textes de Vannevar Bush », *Le Potentiel infini des Humanités à l'ère du numérique. Rendez-vous de la Critique*, le 27 novembre 2017, Faculté des Lettres de l'Université de Porto (Portugal).
- 3) SHIGEMI Shinya, « La revue *Confluences* dans le réseau des revues littéraires dans le Sud de la France sous l'Occupation allemande », Colloque internationale : *Discours antisémite et littérature pendant les années de guerre*, le 17 septembre 2018, Site-mémorial du Camp des Milles, Aix-Marseille Université / CIELAM (FRANCE).
- 4) 重見晋也, 「ドイツ占領下の南部フランスにおける文芸誌ネットワークと『コンフリユアンス』誌—人種差別主義との関係において—」, 『ドイツ占領下におけるフランス文化』, 名古屋大学, 2018 年 9 月 22 日。

〔図書〕(計 1 件)

1) 重見晋也編、『科学研究費補助金研究報告書課題番号：16K02531』

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

(講演会・研究会)

1) Sylvie REQUEMORA-GROS 教授 (Aix-Marseille 大学・フランス) 2018 年 3 月 5 日～
3 月 11 日。

2) 「ドイツ占領下のフランス文化」(場所：名古屋大学、日時：2018 年 9 月 22 日 15 時半
より、場所：文学部 130 会議室)

(web サイト)

<http://rfsoa.lit.nagoya-u.ac.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号(8桁)：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。